

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	CAD 演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：21 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	AutoCAD の基本操作、平面図の作図を学び、次年度以降に CAD 利用技術者試験の取得や CAD オペレーターとしての就職を目指す。		
目指す検定・資格	CAD 利用技術者試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	2DCAD の基本を習得し、基本的な平面図の作図を行う。 また CAD 利用技術者試験に向けての動機づけを行う。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	AutoCAD の基礎を学び平面図の作図ができる		
到 達 目 標	1.2DCAD の平面図の作図ができる		
成 績 評 価 方 法	期末試験（55%）、課題提出（40%）、出席率（5%）で評価する。		
テキスト・副読本	・デザインの学校 これからはじめる AutoCAD の本 技術評論社		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	CAD 演習 II (2D)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：24 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	ものづくり現場においては機械製図の素養が必須であり、そのツールとして広く利用されている 2 次元 CAD の基本操作を学ぶことで、物体の形状把握や表現法を習得する。		
目指す検定・資格	2 次元 CAD 利用技術者試験基礎		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	JIS 機械製図の手法を説明しながら、簡単な機械要素の製図を通じて、物体表現の方法と 2 次元 CAD の特徴および基本的な操作法を実習によって習得する。 AutoCAD の操作方法学習。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	AutoCAD を使った工業 CAD の操作方法と図面の作成技術習得のため、教科書に沿って、基礎知識として最低限押さえておきたい技術レベルの問題を解きながら学習。		
到 達 目 標	1. 機械系 3 次元 CAD の概念と基本操作を理解する。 2. 機械製図の基本的なルールを理解する。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (55%)、課題提出 (40%)、出席率 (5%) で評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト： CAD 利用技術者試験 2 次元・基礎 公式ガイドブック これからはじめる AutoCAD の本		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	C 言語プログラミング演習Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：時間 / 後期：51時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのS E(製造・流通系)としての経験を活かし、 学生がシステム開発を行っていく上での技術や 各部署間でのコミュニケーションの大切さを修 得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	プログラミング技術を四則演算、分岐、配列、繰り返し等を演習中心にプログラムを作成。 実習では基本事項の解説を必要最低限に留め受講者各自が課題を解く過程に多くの時 間を割く。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	サーティファイ C 言語プログラミング能力認定試験 3 級の受験に必要なスキルを身につける。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	基本文法を講義で行い、章末問題で確認をしていく。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得を する。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身につける。 基礎でパターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。		
到 達 目 標	サーティファイ C 言語プログラミング能力認定試験 3 級合格レベルのプログラミング力を身につける。 また、実習課題作成時に発生する不具合を解決するデバッグ力を身につける。		
成 績 評 価 方 法	課題提出物 (70%)、確認テスト (25%) 出欠席 (5%) で評価をつける。		
テキスト・副読本	情報処理試験合格へのパスポート Cプログラミング ウイネット 本校独自のオリジナル実習課題集		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	C 言語演習 II	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期： 時間 / 後期： 32 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのS E ・プログラマ(製造・流通系)としての 経験を活かし、学生がシステム開発を行って いく上での技術や各部署間でのコミュニケーションの 大切さを修得できるよう講義する	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	本講義ではコンピュータプログラミング入門として最も汎用なプログラミング言語Cを教材として演習を中心に授業する。ファイル操作も含めパソコン用オペレーティングシステムの基本操作、ポインタ、関数、構造体等を演習中心に授業する。言語習得の近道は、たくさんのプログラムを作成することが必要と考え、実習では基本事項の解説を必要最低限に留め受講者各自が課題を解く過程に多くの時間を割く。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	サテファイ C 言語プログラミング能力認定試験 3 級の受験に必要なスキルを身につける。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る 事 項	基本文法を講義で行い、章末問題で確認をしていく。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。		
到 達 目 標	基礎的な文法、考え方を身につけることを目的とする。 また、C言語プログラミング検定3級の合格を目指すことでC言語の能力を高める。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	情報処理試験合格へのパスポート Cプログラミング ウイネット		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	IT 業界英語	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 後期 ・ 通年	担 当 教 員	佐藤 眞佐子
時 間 数	前期：時間 / 後期：18 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	IT 業界で実際に使われている英語に触れ、業務で必要となる英語での表現方法と継続して英語を学ぶ姿勢を養う。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	付属 CD を活用しての会話レッスン。特定の言い回しを覚え、日常業務の簡単なやり取りを英語で表現できるようになること。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	学習の仕方として、文章の読み方（スラッシュリーディング）・発声練習（シャドウン グ）・単語の覚え方を、IT 業界の現場で日常的に行われている会話で練習し身に付けていく。		
到 達 目 標	STEP 2 までを目標とする。 STEP 1 英語の語順に慣れる STEP 2 日本語を見て、英語を思い出せる STEP 3 英語のまま意味を理解できる		
成 績 評 価 方 法	期末試験（95%）出席率（5%）で評価する。		
テキスト・副読本	IT・デジタルワーカーのための英会話		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	Web サイト制作演習 II	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷成則
時 間 数	前期： 時間 / 後期： 30 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r での S E ・ プログラマ(製造・流通系)としての 経験を活かし、情報セキュリティの大切さを修 得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JavaScript の基本的な文法を習得する。JavaScript を用いて動的なアプリケーションを作成する。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	座学・演習形式		
そ の 他	特になし		
	後 期		
授 業 の 概 要	JavaScript および jQuery の基本文法を学習する。Web サイトに動的なパーツや要素を作成しインタラクティブなサイトを制作する。		
到 達 目 標	JavaScript の文法を用いて、ブラウザの表示を動的に変更するアプリケーションを作成できる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、制作物 (30%)、授業態度 (5%)、出席率 (5%)		
テキスト・副読本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30 時間でマスター Web デザイン 改訂版 (実務教育出版株式会社) ・ いちばんやさしい JavaScript の教本 第 2 版 ECMAScript 2017(ES8)対応 人気講師が教える Web プログラミング入門 (インプレス) 		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	アルゴリズム概論Ⅲ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのS E(製造・流通系)としての経験を活かし、 学生がシステム開発を行っていく上で必要なアル ゴリズムとデータ構造を修得できるよう講義 する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	プログラム作成時に必要なアルゴリズムについて学習を行う。プログラムの流れを考え、 定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一つではない事を第一に理解する。 また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎で パターン化された手順を学び、その後、応用問題を解く事により理解度を深める。 また別の記述形式として疑似言語も学ぶ。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	・サテファイ 情報処理能力認定試験 3 級、C 言語検定 3 級の受験に必要なスキルを身に つける。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	グループ学習を行い、お互いに説明をしあいながら、アルゴリズムの流れや考え方を身に つける。 確認テストを行い、苦手分野を克服していく。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一 つではない事を第一に理解する。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手 順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、応用問題 を解く事により理解度を深める。また別の記述形式として疑似言語も学ぶ。		
到 達 目 標	配列から整列処理までを理解することで、アルゴリズムの考え方の基礎を身につける 。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	情報処理試験合格へのパスポート アルゴリズムとデータ構造 ウイネット		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	コンピュータシステムⅡ	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：52 時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、SIer での SE・プログラマ(製造・流通系)としての経験を活かし、学生がシステム開発を行っていく上でのコンピュータの基礎的な知識やコンピュータの基礎的な計算方法を修得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	コンピュータシステムⅠでコンピュータに関わる様々な基本原理や基礎技術について学習した内容を、本講義で問題演習を繰り返すことにより理解を深め、サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験 3 級の受験に必要なスキルを身につける。		
目指す検定・資格	サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験問題集 3 級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、いろんなメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他			
	前 期		
授 業 の 概 要	・ 情報処理技術者能力認定試験問題集 3 級 の問題演習		
到 達 目 標	・ サーティファイ 情報処理技術者能力認定試験 3 級を取得する。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 情報処理技術者能力認定試験問題集 3 級 サーティファイ		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	システム制御演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	赤木 伸
時 間 数	前期：16 時間 / 後期： 時間	実務経験： 1982 年-1987 年制御系 SE として、大型プラント作成に従事。1987 年-1989 年情報提供システム構築にユーザ側 SE として従事。1989 年-専門学校システムの構築、運営に従事。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	企業においては、製造部門ではシーケンス制御装置が多用されており、設計・開発部門では、CAD や CAE など支援ツールを活用して製品開発を行う場面が多くなってきている。本講義では、機械制御の実際と実機を利用して工場の制御システム及び PLC 言語の基礎を学習する		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	本実習では、PLC によるシーケンス制御実習システムの構築・実験を通して、計測・制御の知識・技術を身につける。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	配布テキストに基づき、課題実習を行い、その都度提出する。 シーケンス制御システムの構築を行う。		
到 達 目 標	1. シーケンス制御の基本が理解できる 2. PLC プログラムを作成し、動作を確認することができる		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (95%)、出欠席 (5%) で評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	自校作成		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	ビジネスコミュニケーション I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：31 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本で就職する上で必要な文章力、表現力、会話力身につける。就職活動で必要となるポートフォリオの作成。敬語の意味や使い方を学びながら実際の日本のビジネス社会に必要な文章や会話で表現できるようにする。</p> <p>明確なポートフォリオとして学内新聞の発行。</p> <p>また、日本人と同じように自身の意見を相手に理解しやすい形で伝えられる書き方、伝え方ができるようになる。</p>		
目指す検定・資格	文章読解・作成能力検定 4 級（11 月受験予定）		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>様々な課題について長文で書けるようになる。学内新聞の記事をグループごとで作成し、発行する。</p> <p>文章読解・作成能力検定 4 級の模擬試験問題を模擬試験形式で解き、教師は、間違いが多い問題について解説を行う。学生にとって主体的に学べるように新しい単語は自ら学び、グループ活動で問題解決ができるように教師はサポートしていく。</p>		
そ の 他	日本語能力試験を受ける前段階で読解力を身につけ、日本の社会で働く時に必要な文章力と会話力を身につけるための授業である。		
	前 期		
授 業 の 概 要	実践的に学び、ビジネス文書が書けるようになる。また、主体的な学びができるよう個人で学内新聞を一から作成。記事、レイアウトを各自で作成し、新聞記事を作成する。		
到 達 目 標	<p>様々な課題について、正しい敬語や表現で長文を書くことができる。各自のポートフォリオを完成させる。また文章読解・作成能力検定 4 級の合格を目指す。</p> <p>学内新聞の発行（7 月）</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 75%、課題提出 20%、出欠席 5%で総合的に評価する。		
テキスト・副読本	<p>基礎から学べる！文章カステップ文章検 4 級対応</p> <p style="text-align: right;">公益財団法人 日本漢字能力検定協会</p> <p>資料配布</p>		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2年
科 目 名	ビジネスコミュニケーションⅡ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	高橋真実
時 間 数	前期：時間 / 後期：18時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本のビジネスに必要な基本的なこと（敬語やビジネスマナー）を身に付ける。敬語の意味や使い方を学習しながら、実際の会話で使う練習をする。		
目指す検定・資格	BJT ビジネス日本語検定		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ビジネスで必要とされる構文または談話レベルの日本語力（聴解・発話）を身につける。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	ビジネス場面で必要とされる構文または談話レベルの口頭運用力—敬語や待遇表現—について、電話応対、依頼など実際の場面を設定して実践的に学び、それが使えるように練習する。		
到 達 目 標	様々なビジネスの場面に応じて、正しい敬語や表現を使うことができる。日本のビジネスマナーについて、理解することができる。ビジネス上のコミュニケーション能力を高めることができる。		
成 績 評 価 方 法	提出物 50% 期末テスト 45% 出欠席 5%で評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	日本語文法演習「敬語を中心とした対人関係の表現」（スリーエーネットワーク） 人を動かす！実戦ビジネス日本語会話（中級②）（スリーエフネットワーク）		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	ビジネス実務Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	通期：25 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人財」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。</p> <p>そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容とする。</p>		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	上記の目的が達成できるように講義と共に一般常識等の確認テストや社会人になるための動機づけ、やりがいなどを具体的に学生に伝えていき、社会人として常識なる人材になれるようにする。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	3本の柱を立てて実施。就職試験に向けてだけのものでなく、社会人として必要と考えられる、明確な目標設定、マナー・モラルの向上、一般常識の向上を学ぶ。知らない常識をこの時間を使って習得する。		
到 達 目 標	<p>①明確な個人目標設定ができ、それに向かって努力できる。</p> <p>②マナー・礼儀を身に付け、社会人としての判断ができる。</p> <p>③中学・高校レベルの一般常識を復習し、SPI 就職試験に備える。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (90%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テキスト・副読本	「ステップアップ国・数・英 Next」(実務教育出版)		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2年
科 目 名	ビジネス実務Ⅲ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	通期： 時間 / 後期：45時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人財」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。</p> <p>そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容とする。</p>		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	上記の目的が達成できるように講義と共に一般常識等の確認テストや社会人になるための動機づけ、やりがいなどを具体的に学生に伝えていき、社会人として常識なる人材になれるようにする。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	3本の柱を立てて実施。就職試験に向けてだけのものでなく、社会人として必要と考えられる、明確な目標設定、マナー・モラルの向上、一般常識の向上を学ぶ。知らない常識をこの時間を使って習得する。		
到 達 目 標	<p>①明確な個人目標設定ができ、それに向かって努力できる。</p> <p>②マナー・礼儀を身に付け、社会人としての判断ができる。</p> <p>③中学・高校レベルの一般常識を復習し、SPI 就職試験に備える。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (90%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。		
テキスト・副読本	「ステップアップ国・数・英 Next」(実務教育出版)		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	ビジネス表計算技法Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	中上 篤
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間	実務経歴：大手企業で、SE としてシステム設計業務に従事した経験を活かし、実務に則した指導を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	講義内容としては、テキスト例題 30+演習問題 70 でしっかり学ぶ Excel の内容を行う。 Excel を操作したことがない学生が大半であるため、基礎から行っていく。実際にパソコンを使用して、確実に処理が行われているか確認しながら、サーティファイ主催の Excel 検定 3 級合格レベルまで引き上げていく。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	テキストを単元ごとに進み、まず実際に Excel 操作を確認させ、その後実習を行っていく。卒業後も就職先やプライベートでも Excel は必須であることを自覚させ、できるまで繰り返し操作をし、ひとつずつマスターしていく。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	Excel 表計算処理技能認定試験の 3 級レベルを目指す。Excel の基本的な操作（データ入力、罫線・グラフの作成、関数の利用、セルの参照、判定条件、検索関数）について学ぶ。		
到 達 目 標	表計算ソフトの基本機能と操作方法を習得する。関数を使った簡単な表を作成し、必要に応じて並べ替えやフィルター、を設定できグラフの作成まで出来るようにする。		
成 績 評 価 方 法	前期試験 95%、出席席状況 5%		
テキスト・副読本	例題 30+演習問題 70 でしっかり学ぶ Excel (技術評論社)		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム 学科		1 年
科 目 名	プレゼンテーション技法Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：19 時間 / 後期：26 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	「プレゼンテーション技法Ⅰ」を基礎に、実際のプレゼンテーションの演習を行う。2年次の2回にわたるキャリア実習で、経験してきた内容を、外部向けに発表する。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	キャリア実習の報告会のプレゼンテーションを通し、実践的なプレゼンテーション力を身に付ける。また、発表内容に合わせた効果的なPPT使い方、発表のときの立ち居振る舞い、発表を実現するための準備（機材、電気系統、会場設営、会場運営）などプレゼンテーションに関連するすべての実務を経験する。		
そ の 他			
	前 期	後 期	
授 業 の 概 要	キャリア実習の実習グループでその成果内容のプレゼンテーションを作成し、発表、フィードバックまでを行う。教師は、学生の主体的にプレゼンテーションの完成度を高めることを、サポートし、自分たちで問題点を見つけ出し、改善していくことを促す。 実際に発表においては、企業様に見ていただき、フィードバックをもらう。また学生間でもフィードバックシートを付ける。	キャリア実習の実習グループでその成果内容のプレゼンテーションを作成し、発表、フィードバックまでを行う。教師は、学生の主体的にプレゼンテーションの完成度を高めることを、サポートし、自分たちで問題点を見つけ出し、改善していくことを促す。 実際に発表においては、企業様に見ていただき、フィードバックをもらう。また学生間でもフィードバックシートを付ける。	
到 達 目 標	今キャリア実習で受け入れをしてくれた企業様に向けて実施するプレゼンテーションであり、相手に求められている報告を、プレゼンテーションに含むことを考えて、プレゼンテーションを行う。	キャリア実習で受け入れをしてくれた企業様に向けて実施するプレゼンテーションであり、相手に求められている報告を、プレゼンテーションに含むことを考えて、プレゼンテーションを行う。	
成 績 評 価 方 法	プレゼンテーション(実技)95% 出欠席5% で評価する。	プレゼンテーション(実技)95% 出欠席5% で評価する。	
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 留 学 生 の た め の か ん た ん Word/Excel/PowerPoint 入門(技術評論社)	・ 留 学 生 の た め の か ん た ん Word/Excel/PowerPoint 入門(技術評論社)	

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	実践ビジネス文書演習Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	就職活動から入社当初にわたり必要となるビジネス日本語を、短期間で、無理なく、確実に話せること、書けるようになることを目的とする。		
目指す検定・資格	文章読解・作成能力検定4級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ビジネス場面に必要とされる日本語力だけではなく、「異文化の壁を乗り越える適応力」(社会文化能力)や「日本企業が重視するチームワーク力」(社会人基礎力)なども併せて学び、日本企業で即戦力として働くための土台をつくる。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	就職活動から入社当初にわたり必要となるビジネス日本語を、確実に話せる、書けるようになることを目的とする。単にビジネスで使われる日本語表現を学ぶにとどまらず、日本企業で働く際に必要とされる習慣やマナー、入社後に遭遇する異文化間の問題とそれらを解決するに至るまでの手法を幅広く学ぶ。 文書力向上として、文章読解・作成能力検定4級合格を目指して、自分の意見を相手にわかりやすく伝え、意見文が書けるようにする。		
到 達 目 標	日本での就職活動の特徴を理解し、そのうえで、採用までに求められるスキルを理解し、きちんと採用試験においてふるまうことができるように準備をしていく。 文章読解・作成能力検定4級の合格を目指す。(11月受験予定)		
成 績 評 価 方 法	期末試験 95%、出欠席 5%で総合的に評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	基礎から学べる！文章カステップ文章検4級対応 公益財団法人 日本漢字能力検定協会 資料配布		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2年
科 目 名	情報セキュリティ概論	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：15時間 / 後期：時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのSE・プログラマ(製造・流通系)としての 経験を活かし、情報セキュリティの大切さを修 得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	本講義では、大切なデータや個人情報や、インターネット上の「悪意ある攻撃」など から守るための基本知識を学ぶ。生活とインターネットが切り離せないものになった 今、情報セキュリティの知識を身につけることで、自分自身や会社・家族の財産を守 ることにもつなげる。サイバー犯罪やセキュリティ対策の最新事情を交えながら、ち よっとした工夫や心がけで確実に安全性が高まり誰もが実践できるセキュリティ対策 を学ぶ。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	講義中心で行い、セキュリティに関する専門用語で自然にコミュニケーションができる。また急 速に進化するネット社会において、ニュース等で最新の情報も取り入れることで、新 しい知識や技術に興味を持ち、主体的に学べる学生になって欲しい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	情報セキュリティの基本を理解し、様々な場面でのセキュリティに対する問題解決を 理解する。また、IT パスポート試験の情報セキュリティ分野の問題の解き方・考え方 を身に着ける。		
到 達 目 標	曖昧だったイメージを明確なイメージを持てるようにし IT パスポート試験の情報セ キュリティ分野問題が解けるようになる		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつけ る。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	いちばんやさしいITパスポート SBクリエイティブ		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅲ (N1)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N1) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N1)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	日本語能力試験 N1 合格 語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。 日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。 また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。 模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。		
そ の 他	期末試験においても JLPTN1 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	前 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 細やかな日本語のニュアンス、相手が伝えようとしている本質的な部分の理解をすることができる。		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	「はじめての日本語能力試験 N1 合格模試」3回分 アスク出版 「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅲ (N2)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N2) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N2)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N2 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験でも JLPTN2 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	前 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	<p>幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。</p> <p>日本企業で働くために必要な日本語力を身に付ける。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テキスト・副読本	<p>「はじめての日本語能力試験 N2 合格模試」3回分 アスク出版</p> <p>「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」</p>		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅲ (N3)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：15 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N3) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N3)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N3 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN3 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	前 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	<p>幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。</p> <p>日本で就職するために確実に自己の日本語能力を証明できるものをもつ。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テキスト・副読本	<p>「はじめての日本語能力試験 N3 合格模試」3回分 アスク出版</p> <p>「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」</p>		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅳ (N1)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N1) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N1)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N1 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN1 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	後 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テキスト・副読本	「はじめての日本語能力試験 N1 合格模試」3回分 アスク出版 「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅳ (N2)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N2) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N2)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N2 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN2 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	後 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 日本企業で働くために必要な日本語力を身に付ける。		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 課題 (10%) 出席率 (5%)		
テキスト・副読本	「はじめての日本語能力試験 N1 合格模試」3回分 アスク出版 「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	日本語能力試験Ⅳ (N3)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JLPT 日本語能力試験 (N3) 取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 (N3)		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N3 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	期末試験においても JLPTN3 の範囲に沿って受験級ごとに実施。		
	後 期		
授 業 の 概 要	模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施		
到 達 目 標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。 日本で就職するために確実に自己の日本語能力を証明できるものをもつ。		
成 績 評 価 方 法	期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)		
テキスト・副読本	「はじめての日本語能力試験 N3 合格模試」3回分 アスク出版 「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	経営マネジメント概論 I	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：31 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	IT パスポートは、情報処理推進機構（IPA）が実施し、経済産業省が認定する。日本の国家試験であり、IT を利活用するすべての社会人・学生が備えておくべき IT に関する基礎的な知識を証明する試験である。本講義では、留学生が、現代社会の IT 企業で IT をスキルの軸として活躍するために必要な IT に関する基礎知識を幅広く、身につけることを目的に、目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説をし、能動的に理解を深め、検定取得レベルまで引き上げる。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、いろんなメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他	IT パスポートの勉強に並行して、わからない日本語を Quizlet 等に入力させ、日本語力強化もはかる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。		
到 達 目 標	IT パスポート取得に必要な、また日本の IT 企業で働くのに必要な、IT 全般の知識、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の理解の深化をし、IT パスポートを取得できるレベルの到達を目指す。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（60%）、確認テスト（30%）、授業態度（5%）、出欠席（5%）で評価をつける。		
テキスト・副読本	いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書＋出る順問題集（SBCreative）		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	経営マネジメント概論Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期： 時間 / 後期：18 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	IT パスポートは、情報処理推進機構（IPA）が実施し、経済産業省が認定する。日本の国家試験であり、IT を利活用するすべての社会人・学生が備えておくべき IT に関する基礎的な知識を証明する試験である。本講義では、留学生が、現代社会の IT 企業で IT をスキルの軸として活躍するために必要な IT に関する基礎知識を幅広く、身につけることを目的に、目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説をし、能動的に理解を深め、検定取得レベルまで引き上げる。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、いろんなメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他	IT パスポートの勉強に並行して、わからない日本語を Quizlet 等に入力させ、日本語力強化もはかる。		
	後 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。		
到 達 目 標	IT パスポート取得に必要な、また日本の IT 企業で働くのに必要な、IT 全般の知識、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の理解の深化をし、IT パスポートを取得できるレベルの到達を目指す。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（60%）、確認テスト（30%）、授業態度（5%）、出欠席（5%）で評価をつける。		
テキスト・副読本	いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書＋出る順問題集（SBCreative）		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	言語応用 I A	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子 高橋 真実
時 間 数	前期：65 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本で就職するために必要となる日本語能力試験 JLPTN2 を取得するために必要な N2 の内容や範囲の学習を行う。</p> <p>主に言語知識の語彙・文法の内容を行う。</p> <p>高橋：語彙・文法 小野：語彙（漢字）</p>		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 N2 レベル		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N2 レベル相当の漢字・語彙・文法を習得する。</p> <p>日本人と同等に就職するため、日本人高校卒業程度の漢字を身に付ける。</p>		
そ の 他	試験は語彙・文法一体で行う。		
	前 期		
授 業 の 概 要	<p>JLPTN2 の範囲に徹底した内容のテキストに沿って語彙・文法の授業を行う。</p> <p>毎日漢字 20 問のプリントを行い、語彙数を増やし、漢字能力の定着を計る。</p>		
到 達 目 標	<p>JLPTN2 の合格。</p> <p>N2 レベルの基礎的な語彙・漢字を理解し、日常生活や学生生活の場面において、より複雑な内容が読み、話せるようになる。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 45% 単元別テスト・提出物 50% 出欠席 5%		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「日本語能力試験問題集 N2 語彙スピードマスター」J リサーチ出版</p> <p>「TRY! 日本能力試験 N2 文法から伸ばす日本語」(アスク出版)</p> <p>「JLPT N2 日本語能力試験 この1冊で合格する」日本語の森</p> <p>「どんどんつながる漢字練習帳 中級」アルク出版</p>		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2年
科 目 名	言語応用 IB	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子 岡崎 良美
時 間 数	前期：46時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本語能力試験 N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」のうち「読む」力を錬成する。短文・中文・長文の基本練習により内容理解力を養う。		
目指す検定・資格	JLPT 日本語能力試験 N2		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>さまざまな話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行うと同時に、感想・意見をまとめ、話す・書くアウトプットを通して、日本語力の定着を図る。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。</p> <p>また、どんな文章においても、まずは筆者が読者に何を伝えようとしているのか、その文章を書いた意図をとらえながら、深読みしていくことをすすめ、文章の「テーマ」と「筆者の言いたいこと」をグループワークを通してまとめていく。</p>		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	テキスト内の読解部分を中心に学習。		
到 達 目 標	<p>日本語能力試験 JLPTN2 合格</p> <p>N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」能力のうち、読みのストラテジーを身に付ける。情報を素早く正確に読み取り、幅広いトピックに対応できる素養を身に着ける。問題に応じて、スキミングとスキミングの力を使い分ける能力を養う。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 45% 単元別テスト・提出物 50% 出欠席 5%		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「日本語能力試験問題集 N2 読解 スピードマスター」Jリサーチ出版</p> <p>「話す・書くにつながる！日本語読解 中級・中上級」アルク出版</p>		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	言語応用ⅡA	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	高橋 真美 小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：47時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本で就職するために必要となる日本語能力試験 JLPTN2 を取得するために必要な N2 の内容や範囲の学習を行う。</p> <p>主に言語知識の語彙・文法の内容を行う。</p> <p>高橋：語彙・文法 小野：語彙（漢字）</p>		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	JLPT 日本語能力試験 N2 レベル		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 JLPTN2 合格</p> <p>日本語能力試験 N2 レベル相当のやや高度な漢字・語彙を習得する。</p> <p>中級レベルの語彙漢字の確認と演習から発展する。</p>		
そ の 他	試験は語彙・文法一体で行う。		
	後 期		
授 業 の 概 要	<p>N2 レベルの語彙・表現を学習する基礎を作る。</p> <p>毎日漢字 20 問のプリントを行い、語彙数を増やし、漢字能力の定着を計る。</p>		
到 達 目 標	<p>JLPTN2 の合格。</p> <p>N2 レベルの基礎的な語彙・漢字を理解し、日常生活や学生生活の場面において、より複雑な内容が読み、話せるようになる。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 45% 単元別テスト 50% 出欠席 5%		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「日本語能力試験問題集 N2 語彙スピードマスター」J リサーチ出版</p> <p>「TRY! 日本能力試験 N2 文法から伸ばす日本語」(アスク出版)</p> <p>「JLPT N2 日本語能力試験 この1冊で合格する」日本語の森</p>		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		2 年
科 目 名	言語応用ⅡB	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子 岡崎 良美
時 間 数	前期：時間 / 後期：45 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本語能力試験 N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」のうち「読む」力を錬成する。短文・中文・長文の基本練習により内容理解力を養う。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	JLPT 日本語能力試験 N2		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>さまざまな話題の長文を読み、文章表現などを理解しながら読解を行うと同時に、感想・意見をまとめ、話す・書くアウトプットを通して、日本語力の定着を図る。またトピックの背景となる素養・語彙も増やし、コミュニケーションができるようになることを期待する。</p> <p>また、どんな文章においても、まずは筆者が読者に何を伝えようとしているのか、その文章を書いた意図をとらえながら、深読みしていくことをすすめ、文章の「テーマ」と「筆者の言いたいこと」をグループワークを通してまとめていく。</p>		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	テキスト内の長文読解部分を中心に学習。		
到 達 目 標	<p>日本語能力試験 JLPTN2 合格</p> <p>N2 レベルの「読む・書く・聞く・話す」能力のうち、読みのストラテジーを身に付ける。情報を素早く正確に読み取り、幅広いトピックに対応できる素養を身に着ける。問題に応じて、スキミングとスキミングの力を使い分ける能力を養う。</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験 45% 単元別テスト 50% 出欠席 5%		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「日本語能力試験問題集 N2 読解 スピードマスター」Jリサーチ出版</p> <p>「話す・書くにつながる！日本語読解 中級・中上級」アルク出版</p>		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科		2年
科 目 名	C言語プログラミング演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：60 時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのS E(製造・流通系)としての経験を活かし、 学生がシステム開発を行っていく上での技術や 各部署間でのコミュニケーションの大切さを修 得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	C言語演習 I で学んだ知識をプログラミング演習を通して理解度を深める。 C言語の基本的なプログラムとして、データ型、標準入出力、制御構造、配列・文字列を 利用したプログラミングを作成する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	サーティファイ C言語プログラミング能力認定試験 3級の受験に必要なスキルを身につける。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	C言語の理解を深めると同時に、課題の提出期限を守るという社会人として基本的な 行動を身につける。また、実習課題作成時に発生する様々な不具合を解決するために 自分で調べる、他の学生に相談する、教師に相談するなどの的確な行動を身につける。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	C言語演習 I で学んだ知識をプログラミング演習を通して理解度を深める。 C言語の基本的なプログラムとして、データ型、標準入出力、制御構造(分岐、繰り返し)、 配列・文字列を利用したプログラミングを行う。		
到 達 目 標	サーティファイ C言語プログラミング能力認定試験 3級合格レベルのプログラミング力を身につける。 また、実習課題作成時に発生する不具合を解決するデバッグ力を身につける。		
成 績 評 価 方 法	課題提出物 (70%)、確認テスト (25%) 出欠席 (5%) で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理試験合格へのパスポート <li style="padding-left: 20px;">Cプログラミング ウイネット ・ 本校独自のオリジナル実習課題集 		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科			2年
科 目 名	C言語演習 I	科 目 区 分	一般科目	・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則	
時 間 数	前期：32時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのSE・プログラマ(製造・流通系)としての経 験を活かし、学生がシステム開発を行っていく 上での技術や各部署間でのコミュニケーション の大切さを修得できるよう講義する。		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	本講義では、コンピュータプログラミング入門として、最も汎用なプログラミング言語C を教材とし、演習を中心に授業する。ファイル操作も含め、パソコン用オペレーティング システムの基本操作、プログラミング技術を四則演算、分岐、配列、繰り返し等の演習中 心に授業する。言語習得の近道は、たくさんのプログラムを作成することが必要と考え、 実習では基本事項の解説を必要最低限に留め、受講者各自が課題を解く過程に多くの時間 を割く。			
目指す検定・資格	サテファイ C言語プログラミング能力認定試験3級の受験に必要なスキルを身につける。			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	基本文法を講義で行い、章末問題で確認をしていく。			
そ の 他				
	前 期			
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。 また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパ ターン化された手順を学び、その後、演習を通して理解度を深める。			
到 達 目 標	基礎的な文法、考え方を身につけることを目的とする。 また、C言語プログラミング検定3級、情報処理2級の合格を目指すことで、C言語の能 力を高める。			
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつける。			
テキスト・副読本	・ 情報処理試験合格へのパスポート Cプログラミング ウイネット			